



BELIEVE

2003
春季号
VOL.5

新院長就任インタビュー

わたしの目指すもの「医療はこころ」

本田 孔士



「とり」1994年 クレパス 水彩 紙
やまなみ工房(滋賀県) 三井啓吾
(昭和45年6月12日生 滋賀県草津市在住)

出会は今から12年あまり前、当時はまだ下請作業を中心とする小さな無認可共同作業所「やまなみ共同作業所」だった。三井さんは大好きなことを思いっきりしたい、楽しく生きたい、その願いを一枚の紙に一生懸命ぶつけ描いていた。その姿に魅了され、いつしか作業所は下請作業をやめた。一人ひとりのやりたいこと、得意なことを自由に楽しく！

山のなかに建てた手づくりのアトリエで過ごしたあの日、春の訪れを告げに舞い込んだ一羽の「とり」を彼は独特のタッチで瞬時に描きあげた。あれからもう10年。その作品は2,000枚をこえる。

文：山下完和さん(やまなみ工房指導員)
〈大阪赤十字病院は作品掲載を通じてバリアフリーを推進しています〉

昨年度の表紙絵は京都のハンディをもった人たちの活動支援団体・新明塾の藤橋貴之さんでした。今年度は滋賀県のやまなみ工房の三井さんの作品を掲載いたします。

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
一般内科		友野	武呂	渡邊	友野	有馬	全て予約制
			三井				
糖尿内科		隠岐	花岡	田中	隠岐	武呂	
				花岡			
糖尿内科		隠岐	花岡	田中	隠岐	武呂	全て予約制
				花岡			
内分泌内科		田中	隠岐	武呂	田中	花岡	
肥満		田中	隠岐	武呂		花岡	全て予約制
血液内科		渡邊	有馬	通堂	赤坂	通堂	
		通堂					
血液内科		渡邊	有馬	通堂	赤坂		全て予約制
		赤坂	有馬				
消化器内科		米門	津村	大崎	杉之下	圓尾	
					大鶴	松田	
消化器内科				大崎	杉之下	蜂谷	全て予約制
					大鶴		
肝臓内科		喜多	大崎	木村	國立	國立	
肝臓内科		喜多	大崎	木村	國立	國立	全て予約制
胆・膵臓内科		蜂谷	辻	友野	辻	福山	
消化		(予約制)	福山				
胆・膵臓内科			辻・福山		辻	福山	全て予約制
免疫・リウマチ科		竹内	竹内	竹内			
免疫科		竹内	竹内	竹内			全て予約制
腎臓内科		鄭	鄭	鄭	鄭	鄭	
腎臓内科			鄭		鄭		全て予約制
循環器科		滝本	垣田	桂川	田中	稲田	
		林	柏井	稲田	桂川	田中	
循環器科		伊藤	田中	大塚	滝本	垣田	
		林	柏井	稲田	桂川	田中	全て予約制
		伊藤	田中	大塚	滝本	垣田	
心臓血管外科				南		山田	
心臓血管外科				南		山田	全て予約制
小児科		新居	金岡	田中	新居	金岡	
		肩野	住本	靛井	肩野	靛井	
小児科		田中	新居	山本	住本	田中	
外科		兼松	亥埜	横井	瀬尾	井ノ本	
		亥埜	東山	中島	有本	浮草	
外科		鍛	古家	祝迫	三木	東山	
				中島	鍛		
				浮草	井ノ本		
整形外科		牛尾	大浦	富原	大谷	浅野	
		吉田	大谷	大浦	牛尾	渡邊	
整形外科		富原	富	浅野	富原	吉田	
				富原			
リハビリテーション科		渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	
リハビリテーション科		渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	渡邊	
脳神経外科		担当医	岡本	担当医	岡本	伊藤	
			伊藤		新田	小室	
脳神経外科			小室		岡田	新田	
神経内科		金田	竹内	安井	鈴木	加藤	全て初診のみ
神経内科		鈴木	加藤	金田	加藤	鈴木	全て再診のみ
		竹内	安井				

▶異動等により変更になる場合があります。下記ホームページの曜日別医師担当表をご覧ください。また、各科外来にお問い合わせ下さい。

▶大阪赤十字病院に関すること <http://www.osaka-med.jrc.or.jp/>

科目	曜日	月	火	水	木	金	備考
呼吸器科		吉村	久保	網谷	西坂	若山	
		網谷	田原	若山	田原	吉村	
呼吸器科		西坂	網谷		久保	黄	
		黄					
呼吸器科		吉村	久保	網谷	西坂	若山	
		網谷	田原	若山	田原	吉村	
呼吸器科		西坂			久保	黄	
		黄					
呼吸器外科			弘野	渡辺		中出	
				田中			
産婦人科		針田	姫野	松本	関山	三瀬	産科・助産婦外来
		木下	松本	姫野	木下	針田	婦人科外来
産婦人科		関山	馬場	針田	三瀬	馬場	婦人科外来
泌尿器科		金子	西村	大森	西村	大森	全て予約制
		寺田	寺田	小堀	金子	小堀	
眼科		吉田	柏井	吉田	柏井	坂上	
		正井	担当医	森下・加賀	担当医	木枕	
眼科		加賀・森下		坂上		正井	
		岡本		木枕		岡本	
耳鼻咽喉科		箕山	岩永	箕山	田邊	岩永	
気管食道科		担当医	與那嶺	柿木	担当医	担当医	
		岡野	柿木	與那嶺	担当医	岡野	
		田原	担当医	田原		田原	
皮膚科		高瀬	堀口	堀口	藤井・高瀬	堀口	
		森	太田	森	森	藤井	
皮膚科		藤井	高瀬	藤井		高瀬	
			堀口				
			松島				
形成外科		大井	柴田	中井	大井	柴田	
精神神経科		吉田	早川	上田	土戸	吉田	
		上田	土戸	吉田	早川	早川	
精神神経科			担当医		上田	土戸	
放射線科		石垣	藤堂	石垣	藤堂	藤堂	
		藤堂	石垣	藤堂	小嶋	石垣	
放射線科		小嶋	小嶋	小嶋	西川	小嶋	
		西川	西川	西川		西川	
放射線科		小嶋	石垣	藤堂	藤堂	石垣	
		西川	小嶋	小嶋	石垣	小嶋	
			西川	西川	小嶋	西川	
歯科		舘庭	杉立	松本	担当医	親里	全て初診のみ
		松本	松本	杉立		松本	全て再診のみ
歯科		杉立	舘庭	舘庭		杉立	全て再診のみ
		親里	親里	親里		舘庭	全て再診のみ

受付時間(月～金)

初診の方 —— 月曜日～金曜日 午前8時30分～午前11時30分
再診の方 —— 月曜日～金曜日 午前8時45分～午前11時45分
診療開始は —— 午前8時45分からです

お問い合わせ

☎ 06-6771-5131 (代表)

診察券は

診察券は全科共通で永久に使用いたします。ご来院時には必ずおもちください。

保険証等は

保険証、医療証等は月に1度窓口で確認させていただきます。また、変更・更新の際は必ずご提出ください。

大阪赤十字病院新院長 本田孔士

2003年4月1日付にて大阪赤十字病院の院長に就任した本田孔士院長にインタビューしました。

わたしの「医療はこころ」



略歴
 昭和14年 7月21日生
 昭和40年 3月 京都大学医学部医学科卒業
 昭和48年 11月 京都大学医学博士
 昭和49年 9月 京都大学医学部講師
 昭和60年 10月 京都大学医学部教授
 平成7年 4月 京都大学医学研究科教授、医学部教授兼任
 平成9年 4月 京都大学医学部附属病院長併任
 平成15年 4月 大阪赤十字病院院長就任

【受賞歴】
 昭和46年 4月 清水賞（財団法人日本眼科学会）
 平成10年 4月 日本眼科学会賞（財団法人日本眼科学会）
 平成10年 10月 京都市自治百周年記念賞（京都市長）
 平成14年 11月 盛賞（日本網膜硝子体学会）
 平成14年 11月 京都新聞学術文化大賞（京都新聞）

Q:まず、読者の皆様にご挨拶をお願いします。

本田 平成15年4月1日付で、日本赤十字社藤森社長より、大阪赤十字病院院長職を命ぜられました本田孔士です。前任の清水達夫院長を後継しつつ新鮮味も加え、大阪赤十字病院の充実に全力であたれる所存でございますので、よろしくお願いたします。

Q:院長としての本田院長の基本方針をお聞かせいただけますか。

本田 私は、大阪赤十字病院の基本理念であります「わたくしたちは、人道・博愛の赤十字精神に基づきすべての人の尊厳をまもり心のかような高度の医療をめざします」を中心に、この病院の今持っている個性を伸ばし、更に飛躍させていきたいと考えています。

Q:社会における「医療」の立場・役割についてどのようにお考えですか。

本田 医療は何ら物を社会に生み出す産業ではありません。そういう意味では第3次産業であります。病を持って病院の門をくぐる患者さまの身体的・精神的な不安を取り除き、日常生活に復帰する手助けをするためにあります。医療の現場は、目の前にいる患者さまを現有の最善の手段で診断し治療するしかありません。医療は待ったなしの戦場のようなものですね。そのなかで、我々医療従事者の頑張りや、患者さまに勇気を与え、社会における安心の場になればと考えております。さらには、病院は今日の社会情勢の急速な変化に対応して、引き続き社会的に信頼される立場を構築する努力をしていかなければなりません。

Q:当院は開院以来、地域の中核病院として約一世紀にわたり医療サービスに努めてきましたが、その点についていかがですか。

CU（集中治療室）で、麻酔科の橋本医師と伴に診療に当たっています。また、附属の大手前整頓学園（障害児のリハビリ施設）では小児科的な諸問題に対応しています。

当科では、以上のような幅広い診療をしていますので、お子さまのことで何かお困りの事があれば、お気軽にご相談ください。



小児科外来看護師及び受付スタッフ



新居 正甫



本田 真一

患（田中、住本医師）、神経疾患（新居医師、葭井医師）、循環器疾患（山本医師）、腎臓疾患（住本医師）、未熟児（金岡、葭井、肩野医師）。その他、稀な病気は、大学病院等の専門医と相談しながら診療しています。

当科では、一般外来以外に、夜間・休日の救急外来で、救急医とともに診療にあたることがあります。重症患者はNICU（新生児の集中治療室）やI

ご存じですか？ ②小児科とは？

小児科って何歳まで？

「小児科では何歳まで診てもらえますか？」というご質問を受ける事がありますが、「原則としては15歳までです。」とお答えしています。ただ、病気や患者さまの具合によっては、はたちを越えた方も診ています。また、子供の病気であれば、あらゆる分野の病気を診ています。

子供は、おとなと違い、症状をうまく訴えることができないことが多く、乳幼児ではなおさらです。

また、子供の病気は、進行が速く急に悪化する事があります。従って、当科では、まずその患者さま全体を診察し、「病気なのか否か、重症か否か、緊急な対処が必要か否か、入院が必要か否か」などできるだけ速く判断します。検査も、できるだけ最小限にし、ほとんどの検査は、施行後すぐに結果を出して、診療に活かせるよう努力しています。

子供の病気は、大部分が急性の病気ですが、慢性の病気もあります。以下の慢性の病気については、専門医を中心に定期的に診療しています。血液疾患、悪性腫瘍（田中、山本医師）、アレルギー、免疫疾

病気と仲良く付き合う術

（五月病）

精神神経科 吉田佳郎



桜の季節も過ぎ去り、さわやかな緑の5月を迎えています。新生活や新入社員にとって、そろそろ大学や会社になれてくる時期ですが、何となく気分がめいって新しい生活が楽しめなったり、時には疲れやすくて学校や職場を休みがちになることがあります。

かつて厳しい受験勉強をへてあこがれの大学に入學した新入生が、この時期五月連休明けごろから急に無気力になり、勉学への関心を失い、キャンパスに現れなくなることからこの名前がつけられました。「五月病」という言葉が毎年のようにマスコミの話題になることもあります。

か寝付けなかったり、眠っても目が覚めたり、めまいや肩こりあるいは食欲不振や体重減少など身体の症状が持続することがあります。さらには疲れやすく、仕事への気力がわいてくず、職場も休みがちになることがあります。

原因として、新しい職場・環境に早くなじもうとする努力があせりやま、心身のストレスとなったり、また現場に出て、自分の理想と現実のギャップに悩むことなどがあげられます。

自分自身がストレスに直面したり、心身の不調に気づいても決して焦ったり悲観せず、十分な休息と睡眠をとるよう心がけてください。また一人で悩まず、家族や友人に相談することも大切です。



ちょっとためになる 栄養学

ビタミンについて (その2)

栄養課 伊藤 大翼



以前、ビタミンB群についてお話ししましたが今回は「ビタミンA」についてお話ししたいと思います。ビタミンとは、その物質が体内に存在しないと特異な症状が出て、微量の投与によりその症状が劇的に回復します。その物質こそ「ビタミン」なのです。まさに「体内の潤滑油」といったところです。ビタミンの種類は表1に示すように13種類あります。脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンに大きく分類されています。

表1 ビタミンの種類

脂溶性	水溶性
ビタミンA	ビタミンB群
ビタミンD	ビタミンB ₁
ビタミンE	ビタミンB ₂
ビタミンK	ナイアシン
	パントテン酸
	ビタミンB ₆
	ビタミンB ₁₂
	葉酸
	ビオチン
	ビタミンC

さて、ビタミンAとはどんなビタミンなのでしょう。欠乏症として、ビタミンAと似たようなビタミンの種類は表1に示すように13種類あります。脂溶性ビタミンと水溶性ビタミンに大きく分類されています。

最近では、ビタミンAというより、ベータカロチンのほうがよく耳にします。これは、ビタミンAの前駆体でプロビタミンAといわれるのです。ビタミンAには過剰症がありますが、ベータカロチンに過剰症はありません。ビタミンAやベータカロチンに過剰症はありませぬので安心して摂取することができます。

症予防以外に重要な作用として上げられるのが、抗酸化作用です。体内で生じる活性酸素は、大変な暴れん坊で体のあちこちを傷つけ、老化を早めたり、ガンを誘発したりします。これを防ぐ作用をもつのがビタミンAやベータカロチンです。他に抗酸化作用のあるビタミンは「A・C・E」ですので「ビタミンE」とおぼえておきましょう。

ビタミンAやベータカロチンは皆さまざまよくご存知のように、にんじんを始めとする緑黄色野菜に多く含まれています。昔から伝わる「いつもお皿はカラフルに」というのは、現代の栄養士が「いろいろな野菜を摂りましょう」というのと同じです。いつもながら昔の知恵の正確さには驚かされます。

就任あいさつ



本多典久新管理局長

医療は、サイエンスに基づいたサービス業です。サービス業であるが故に、患者さまに対する態度も自ら決まり、服装、言葉遣いも決まってきました。また、診療に当たっても理解・納得していただくことが必要です。私たちは、「沢山の治療費をいただき、しかも数ある病院の中からわざわざ選んでここにきていただき、ありがとうございます。」と感謝する気持ちをもって、これからも患者さまとともに歩んでまいります。

